

◆部会での意見の取り扱い

第1回都市空間部会（平成21年8月28日）

発言番号	意見の内容	指針素案での取り扱い	該当箇所
【議題：全体構成 及び 1 めざす都市空間の全体像】			
(全体的な考え方)			
1	・人口減少社会に対応するため、人口密度を低下させるのか、まちを縮退させるのかということも大きな視点で捉えておくべきである。特に田園部、ニュータウンをどう考えるのか。	・人口の将来的な減少に対しては、都市の魅力向上や産業の活性化、少子化に歯止めをかける取り組みなど長期的な観点で対応していくものとして第1部に記載している。 ・ご指摘の趣旨は第5部第2章めざす姿の中に「社会情勢の変化に対応し、地域特性を活かした適正な土地利用を誘導」として位置づけている。	p.8 下段 p.61 下段
2	・総論的に将来をめざす方向を書くことは分かるが、過去の反省に立つことが必要ではないか。	・指針策定にあたっては、「復興の総括・検証」や中期計画「神戸2010ビジョン」における毎年度の検証・評価をふまえ、過去の反省や現状の認識に立って指針策定を行っており、その趣旨は反映されていると考えている。	
3	・これまでの神戸のいいところを伸ばしつつ、やはり転換する部分は、このように取り組んでいくという決意・姿勢がこのマスタープランの全体像にしているのではないか。	・序論および第1部において、先駆的な協働の取り組みなど神戸の強みを活かすことや、成長型社会から成熟型社会への転換を踏まえることを指針の基本的な考え方としている。	
4	・すばらしい人材という資産があることに気づいていないのではないか。市民との協働という文章表現はあるが、具体的な取り組みの形が見えない。例えば「3 地域が主体的に取り組む地域環境をつくる」では、今までの経験をふまえた記述にはなっているが、取り組みの方向性のところへもう少し具体的な文言を盛り込んでほしい。	・第7部第1章では人が最も重要な財産であるとの認識に立ち「人財」として位置づけている。具体的な取り組みについては今後策定する重点施策計画や部門別計画で検討していきたい。	p.79 下段
5	・具体的な取り組みの表現について、指針と重点施策計画の書き分けの整理が必要である。	・指針については、長期的な取り組みの方向性を示すという趣旨に従い記述を行った。今後重点施策計画の策定を進めるにあたり、必要であれば修正を行う。	
6	・基本的な視点に「都市空間の形成を市民・事業者とともにめざしていきます。」の記述があるが、災害も環境も人が一番大きな問題になる。3の「人が交流・融合する「みなと」の創造」のところで記載している文言を基本的視点のところへもっていくべき。例えば、「活力・知力・魅力にあふれ、人と人が強い絆で結ばれた都市空間の形成をめざします。」としたほうがよい。	・ご指摘の趣旨を受けて、表現を修正している。「人と人が強い絆で結ばれたまちの形成と次世代への継承を市民・事業者・市がともにめざしていきます。」	p.57 上段
7	・まちづくりには外部の力が必要であり、都市空間では市民ということに限らず、広く、多くの人と捉える方がよい。	・ご指摘の考え方が重要であると考えており、第5部第1章でめざす姿に位置づけている。 また、第7部第1章では人が最も重要な財産であるとの認識に立ち「人財」として位置づけている。	p.57 上段 p.79 下段

(災害などの危機に備えた安全な都市空間の形成)			
8	・南海、東南海地震が 2020 年から 2040 年の間に起こるといわれている。今回の 15 年の計画に、東南海地震などに対応した都市機能を備えるなど、記述内容を充実させてはどうか。また、どんなイメージの災害が起こるのか市民に伝える記述の工夫が必要ではないか。	・ご指摘の趣旨を踏まえて、第 4 部第 1 章の「ともに進める取り組み」の記述内容について充実している。	p.50
9	・地震が起こっても、被害については場所ごとに異なる。表面上同じに見えても、その土地がどのような成り立ちでできているのかを知ることが大事である。	・ご指摘の趣旨を踏まえて第 4 部第 1 章で「効率的・効果的な情報伝達手段や体制」の充実を位置づけている。	p.51 下段
(デザインの視点で磨かれた魅力ある都市空間)			
10	・デザイン都市・神戸だが、そのドライビングフォースが大事と感じている。デザイン都市・神戸について、市民を巻き込んで、理解を深める取り組みが必要である。	・第 1 部の「神戸づくりの指針の視点」で「デザイン」をまちづくりに活かした「デザイン都市・神戸」の推進を図ることを位置づけている。 例えば、第 4 部第 2 章、第 5 部第 1 章ではともに「デザイン都市にふさわしい空間づくり」をめざすとし、市民・事業者・市がともに進める取り組みについて記載している。また、第 7 部第 2 章では「デザイン都市・神戸」を具現化する「港都 神戸」の創生を図る取り組みを記載している。	p.18 中段 p.52～53 p.57 下段 p.82
11	・夜間景観をクローズアップしてほしい。イベント的ではなく、固定した形での夜間景観の創出により神戸らしい景観をめざすべきではないか。	・第 4 部第 2 章で「特色ある夜間景観の形成に向けた取り組み」の推進を位置づけている。	p.53 上段
12	・神戸にもっと人に来てもらうためにどうするのかの背骨の部分が見えにくい。神戸には対内的、対外的にアピールできるはっきりとした顔が必要だと思う。	・第 1 部の「神戸づくりの指針の視点」で「デザイン」をまちづくりに活かした「デザイン都市・神戸」の推進を図ることを位置づけている。例えば、第 4 部第 2 章、第 5 部第 1 章ではともに「デザイン都市にふさわしい空間づくり」をめざすとし、市民・事業者・市がともに進める取り組みについて記載している。第 7 部第 2 章では「デザイン都市・神戸」を具現化する「港都 神戸」の創生を図る取り組みを記載している。 また、第 7 部第 1 章ではそれらを国内外に積極的に発信する旨を位置づけている。	p.18 中段 p.52 中段 p.57 下段 p.82 上段 p.79 中段
(低炭素社会を実現する持続可能なまちをめざして)			
13	・新しい環境産業や環境に寄与する技術を地域特性に合わせ、活かしていく視点が必要である。ゾーンごとに、自然の資源をいかし、ポテンシャルを保全・活用・発展させ、適切な土地利用を誘導することも重要になる。また、新しい環境産業により、神戸の活力を高めるとともに、自然の保全などとうまく共存できる計画とする必要がある。	・ご指摘のご意見をふまえて、第 5 部第 1 章に、ゾーンの区域を維持しながら「森林や河川・海などの豊かな自然環境とさまざまな都市機能が調和するまちづくり」を進める旨を位置づけている。 また第 4 部第 3 章では「③低炭素社会の実現に貢献する産業を振興」することを取り組みに位置づけている。	p.58 中段 p.56 上段
(めざす都市空間の全体像 図面について)			
14	・ゾーン構成について、神戸は、まち、田園、みどりのゾーンだけでなく、まちと一体となった海（水、水面）のイメージが重要である。	・第 5 部第 1 章で河川や海辺などを含めた自然環境について、「都市環境インフラとして、私たちの生活になくてはならないもの」である旨を位置づけている。	p.57 上段

15	・水とみどりの戦略についても海や河川を意識した記述が少ない。河川については六甲山系から瀬戸内海に対して直接流れ込んでいることが神戸の大きな特徴であるが、防災面も含めて空間構造や文言でも触れられていない。	・第4部第2章の「水や緑など自然環境を活かしたまちづくりを進める」ための取り組みや、「山から海までの水とみどりのつながりを意識した生態系ネットワークの形成」などにつき記述を充実した。	p.52 下段 p.53 上段
16	・各ゾーンが相互に接している部分も非常に重要である。	・第4部第2章「神戸のウォーターフロントの魅力向上」(海のゾーンとまちのゾーン)や第5部第2章「山麓部でのみどり豊かでゆとりある低層を中心とした住環境の誘導」(まちのゾーンとみどりのゾーン)などご指摘のような考え方を意識して記述している。	p.52 下段 p.62 上段
17	・全体像の図では、従来の動脈型で物や人の動きに対応したインフラを整備する印象を受ける。環境インフラなど静脈型の部分が見えてこない。静脈型には表現が難しいが、歴史資源も含まれる。	・ご指摘の趣旨を踏まえて、第5部第1章で「(緑や田園、河川や海辺などの)豊かな自然環境は、いわゆる都市環境インフラとして、私たちの生活になくってはならないものとなっている」旨を位置づけ、取り組みについて記載している。	p.57 下段
18	・図を見ると、東西の交通は充実しているが、田園地域など六甲山を越えた部分を含め南北の交通ネットワークが薄い。ブラジルのクリチバ市のバスをうまく使った交通システムなどを神戸市でも考えられないか。また例えば元町から三宮までについては、車の乗り入れを規制し、歩行者天国のようにしてもよいのでは。	・第7部第2章で都心ウォーターフロントの回遊ネットワークの形成に向けて「都心への自動車通過交通の流入抑制や、公共交通への利用転換による自動車利用の抑制を図る」旨を位置づけている。	p.83 上段
(用語、構成について)			
19	・地域力、知力 などの言葉がわかりにくい。定義や使い方については工夫が必要である。	・ご指摘の点を受けて、表現を工夫している。	p.58 他
【議題：2 めざす都市空間を形成するための分野別の取り組み (1)秩序ある土地利用の誘導 (2)海・空・陸の総合的な交通環境の形成】			
(秩序ある土地利用の誘導)			
20	・社会情勢をふまえると、今回はディフェンスの計画を作ることだと思う。ディフェンスは悪いイメージをもたれるが、それができないとまちがもたない。その中でどういう都市像を打ち出すのか。土地利用は、市街化区域の拡大抑制などディフェンシブな発想で書かれているが、明確な表現が必要。また、もう少し踏み込んで、縮退など守れないところも出てくることに触れ、守れないところのサポートの記載も重要である。	・ご指摘の考え方を踏まえて、第5部第2章のめざす姿に「社会情勢の変化に対応し、地域特性を活かした適正な土地利用を誘導」することを位置づけており、また取り組みとして「新たな住宅需要についてはまちのゾーンで確保することを基本とし、原則として新たな住宅開発による市街化区域の拡大は抑制」する旨や、「山麓部では、みどり豊かでゆとりある低層を中心とした住環境を誘導」することなどを記載している	p.61 中段 p.62 上段
21	・田園ゾーンの記述に地産地消、まちづくりとの連携というキーワードをいれてはどうか。また市民の食生活を守る視点で、自給自足をめざすことを記載すべきでは。	・4部第3章で「食糧の輸送に伴うCO2の排出の低減につながる地産地消を推進」する旨を位置づけている。	p.56 上段
22	・都心域での高層マンションの問題は、喫緊の課題である。	・第5部第2章で「(都心域などの)利便性の高い地域では、眺望景観や周辺の土地利用に配慮しながら共同住宅の立地を誘導」することを位置づけている。また三宮駅周辺では「中枢管理機能や神戸ならではの商業・業務機能の集積を促進し、神戸の玄関口にふさわしい都市空間を形成」する旨を位置づけている。	p.62 上段 中段
23	・秩序ある土地利用の空間像を実現するために人がどう関わるかということも、記載が必要。全体像のところに、みどりを維持するための地域別の取り組みや協働についての記述があれば整合性がとれる。	・ご指摘の趣旨をふまえ、第5部第1章(めざすまちの姿)で「恵まれた自然環境を最大限に保全・育成」しながら、「都市全体に対するマネジメントを行う」ことを位置づけている。	p.57 中段

		また第4部第2章では「地域・NPO・事業者との協働による地域の公園管理や河川の愛護活動、森林の保全活動など」の取り組みをすすめる旨を記載している。	p.53 上段
(海・空・陸の総合的な交通環境の形成)			
24	・2(1)①広域交通ネットワークの形成は非常に大事な取り組みであるが、財政が大変な状況でほとんど実現が不可能だと思う。都市計画道路内は規制がかかるが、計画決定後、放置されており、プライオリティの検討・実施が必要。	・第5部第3章で「都市の骨格となる都市内幹線道路網において、整備優先順位を考慮した効率的・効果的な整備を推進」することや「地域のくらしを支える上で、より効果的な道路を選定し、その整備を推進」する旨を位置づけている。	p.65 上段 中段
25	・交通については、既存の公共交通の有効利用とあるが、既存交通インフラの利用とそのメンテナンスが非常に大事である。	・第5部第3章で広域・主要公共交通ネットワークの維持・形成の推進として「適切なメンテナンスなどの取り組みを推進」する旨を位置づけている。	p.65 上段
26	・超高齢化社会への対応は公共交通だけではないと思う。パーソナルな移動手段も含めた記載が必要では。新しい公共交通のあり方を含め、検討いただきたい。	・第5部第3章で「超小型電動自動車、自転車などパーソナルな交通手段への対応」などを進めることを位置づけている。	p.65 上段
27	・道路空間については、既存ストックを活用するという観点から、もっとワイズユースすることで、可能性を持った空間になると思う。例示としては環境への寄与として、風の道や蓄熱をしない道などがある。	・第4部第3章で「冷涼な空気が通る風の道」など、「公園・緑地・道路・水辺空間などのオープンスペースの整備を進める」ことを位置づけている。	p.55 中段
28	・事務局案のめざす将来像に、ウォーターフロントのあるべき姿について記述があるが、阪神高速、国道2号のバイパスの撤去といった表現を入れるべきでは。景観の点からもマスタープランで方向性だけでも記述すべき。	・第7部第2章で「通りから海への眺望の確保や魅力的な夜間景観づくり、高架道路の景観への配慮など神戸らしい個性豊かなまちなみによる眺望景観を形成」する旨を位置づけている。	p.82 下段
29	・ベイシャトルの話よりは、長期的な視点から関西3空港の一体運用にも触れる必要があるのでは。	・第5部第3章で広域的な都市の連携を支えるネットワークとして「海上アクセスの利用促進などをはじめ、関西国際空港と神戸空港との連携強化による海外とのゲートウェイ機能の充実のほか、関西3空港の一体運用を進める」ことを位置づけている。	p.64 下段

第2回都市空間部会（平成21年9月28日）

発言番号	意見の内容	指針素案での取り扱い	該当箇所
【議題：第1回議事要旨、審議資料の全体構成】			
（海・空・陸の総合的な交通環境の形成）			
1	・ 思い切った低炭素物流・交通社会の実現にいち早くとりかかるべき。パーソナルな電気自動車の活用や、思い切ってLRTを導入するというような発想で、既存の道路ネットワークを検証しては、「環境にやさしい」だけでなく、神戸が生き残っていく戦略として何が必要かという視点が必要。	・ 第4部第3章にめざす姿として「低炭素社会を実現する環境負荷の少ない持続的発展が可能なまち」を位置づけている。また取り組みとして、「低炭素社会の実現に向けた都市構造を形成すること」や「電動自転車や電気自動車などが利用しやすい都市基盤の形成を進めること」を位置づけている。	p.54 上段 p.55 上段
2	・ 港でのCO2排出量の制限や、燃料への環境税の影響など世界の流れをふまえた上で、これからの神戸港やその周辺道路のあり方について考えておくべき。	・ 第4部第3章では、めざす姿として神戸港における「低炭素物流を先取りした戦略的な取り組みを推進」する旨を位置づけている。また取り組みとして「環境ロードプライシング等による沿道環境の改善」など、低炭素化による環境にやさしい物流を推進する旨を位置づけている。 ・ また第5部第3章では「経済を活性化し、環境にやさしい」交通環境を形成することを位置づけている。	p.54 中段 p.55 上段 p.65 下段
3	・ 神戸は、南北のアクセスが弱い。ウォーターフロントを活かすために、新しい電気系の乗り物や、あるいはハーバーランドのあたりへLRTを乗り入れてつないでいってはどうか。具体的な施策の例を書くのであればそこまで踏み込んでほしい。	・ 第7部第2章で「ウォーターフロント東西を結ぶ新たな公共交通機関」など、都心・ウォーターフロントの回遊性を支援する環境にやさしい公共交通機関の導入について記載している。	p.83 上段
4	・ 新しい公共交通機関のあり方について。交通を「人」の移動という視点で見ると、複数の人が毎日通院するより医者が往診すればCO2排出が半分ですむという発想ができる。交通体系というと車の移動を考えるが、大切なのは「人」の移動であるという視点で、その機能を優先していくことで、ハード面を備えなくても今あるもので対応できるものは多い。	・ 第5部第3章で「人の交流を促進する交通環境を形成する」として「人の生活を支える視点でのさまざまな交通環境の形成」などを推進することを位置づけている。	p.65 中段
（秩序ある土地利用の誘導）			
5	・ 郊外の縮退の問題は、部分的にでも整理して方針を考えておくべき。近い将来、高齢化が進むと、公共負担が非常に大きくなるエリアが出てくる。	・ 第5部第2章ではめざす姿として「社会情勢の変化に対応し、地域特性を活かした適正な土地利用を誘導」する旨を位置づけている。	p.61 中段
6	・ ウォーターフロントのあり方として、産業地域を土地利用的にどう位置づけるか。単に都心のウォーターフロントでいいのか。やはり産業用地は必要な用地であり、暮らしと神戸の特徴的な水辺をどのように考えていくかが課題ではないか。	・ 第5部第2章では「産業エリア」ではさらなる産業集積や機能の拡充などにより、神戸の活性化をめざすものと位置づけており、取り組みとして臨海産業エリア、内陸新産業エリア、知識創造エリアなどの維持・強化を図ることを位置づけている。	p.62 下段
7	・ まちのゾーンのところで、医療産業都市の育成やHAT神戸の国際交流機能などについて、機能で位置づけているというイメージが薄い。その地域自体がある種の機能を持つ空間だという打ち出しを意識してはどうか。	・ ご指摘の考え方を意識して、第5部第1章「活力をもたらす産業エリア」の記述及び図（めざすまちの全体像）で、エリアの機能について示している。	p.59 上段 p.60 図

【議題：分野別の取り組み (3)水と緑を大切にした都市空間の形成、(4)デザイン都市・神戸にふさわしい魅力ある景観の形成、(5)快適な住環境の形成、(6)環境にやさしく持続可能なまちをめざした取り組みの推進、(7)災害などの危機に備えた安全な都市空間の形成】

(水と緑を大切にした都市空間の形成)			
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組みの方向性をまち・田園・緑の3つのゾーンに切り分けたことの弊害が出ている。水(河川・海)・公園緑地・森林のあり方を、各ゾーン別の課題として整理したために、これらが環境インフラストラクチャーとしてこれからの都市づくりに重要な視点であるという認識が抜けてしまっているのではないかと。具体的には、まちのゾーンでは施設としての川、施設としての公園しか出ておらず、行為としての緑化という視点がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5部第1章で緑や田園、河川や海辺などの自然環境は、「いわゆる都市環境インフラとして、私たちの生活になくてはならないもの」である旨を基本的な視点として位置づけている。 	p.57 上段
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市環境の改善のためには、六甲山のもつ冷涼な空気や生物多様性などをまちのゾーンへどうつなぐかということが重要だが、これもゾーン別に区切ったことによって書きづらくなっている。景観のところではうまく整理されつつあるので、水と緑についてもこのような整理が求められるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘の視点をふまえて、第4部第2章で「山から海までの水とみどりのつながりを意識した生態系ネットワークの形成」、第3章では「冷涼な空気を通る風の道など、ヒートアイランド対策の視点からも公園・緑地・道路・水辺空間などのオープンスペースの整備」などにつきゾーンのつながりを意識して記載を充実した。 	p.53 上段 p.55 中段
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちの中の公園や緑化について、震災後、緑化を通じたまちの復興・再生にたくさん取り組まれてきたようなことが抜けている。また、田園あるいはみどりのゾーンは、産業としてよりもむしろ環境としてどう成立させるかという視点がないと維持できない。維持管理という言葉ばかりではなく、どのように皆がその場に関わって使いこなすか、という「しくみ」の部分について、整理して書き込むべきでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘の趣旨をふまえて、第4部第2章のめざす姿に「まちの美しさや魅力の向上や自然共生社会の実現に向けたさまざまな取り組み」を協働で進めることを位置づけるなど、協働のしくみにつき記載を充実した。 	p.52 中段 p.53 上段
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体像の絵は、骨格をどうつくるか、どうつないでいくかといった視点にたっている。逆に、絵を文章化するアプローチも有効と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5部第1章では、めざすまちの全体像の絵を説明する文章表現を行っている。 	P57～59
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜景を売り出すと言いながら、六甲山のアクセスは現在も非常に悪く、摩耶ロープウェイも老朽化で使えなくなるとも聞く。「みどり」を確保してもアクセスできなくては大きなマイナスで、田園も含めて、現実とあっているのだろうかという気になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5部第2章では「市民利用を促進する視点から、公園・緑地等の積極的な活用策を進める」旨を、また第2部においてはオンリーワン観光資源としての再構築の方向性を記載について位置づけており、具体の施策については今後策定する重点施策計画などにおいて検討していきたい。 	p.63 上段 p.35 上段
(デザイン都市・神戸にふさわしい魅力ある景観の形成)			
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観は、集客観光に資する必要があるという観点を入れておくべき。とりわけ、新神戸～三宮～ポートアイランド～神戸空港の南北軸、ハーバーランドからHAT神戸に至るウォーターフロントの回遊プロムナードについては、整備も含めて言葉だけでも入れておく必要があるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2部の2第3章で「夜景観光などによる、周遊と滞在につながる観光の促進」を位置づけている。 ・ また第5部第3章では「都心域においては、基幹交通軸、山麓交通軸などからなる利便性の高い公共交通ネットワークの形成」をめざす旨を位置づけるとともに、第7部第2章で「連続した海辺の親水空間の形成とオープン空間の適切な配置を図ること」を位置づけている。 	p.34 下段 p.64 p.82 下段
14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2(2)「見晴らし型の眺望景観」について、現在の眺望景観の基準はポーアイしおさい公園だと思うが、メリケンパークやハーバーランドのように人が集まる場所からの視点が大事ではないかと。どこから見た景観なのかがポイントであり、共通認識をもつことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘の趣旨をふまえて第4部第2章で「河川や道路などの先に海や山を望む眺望景観の保全・育成を進める」旨を位置づけており、また第7部第2章では「通りから海への眺望の確保」など神戸らしい個性豊かなまちなみによる眺望景観を形成することを位置づけている。 	p.53 中段 p.82 下段

(快適な住環境の形成)			
15	<ul style="list-style-type: none"> 「住環境」としての捉え方が弱いのでは。今ある住環境の質をどう維持し、管理する仕組みをつくるかは大きな課題。防災やみどりなども総合的に組み合わせられて個々の住環境があるので、住環境の項目の中に記載している方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 住まいについての情報発信や教育の推進、地域による住まいの環境を維持・管理するルールづくりや継続的な取り組みの支援など、「大切に住まう・ともに住まう意識」の向上をめざします。 	p.27 中段
16	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会をどうふまえるのかという視点が、住環境の部分にない。特に郊外ニュータウンやスプロールした山麓住宅において、スムーズに縮退できるようなプログラムが必要では。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口の将来的な減少に対しては、都市の魅力向上や産業の活性化、少子化に歯止めをかける取り組みなど長期的な観点で対応していくものとしている(第1部)。ご指摘の趣旨は第5部第2章めざす姿で「社会情勢の変化に対応し、地域特性を活かした適正な土地利用を誘導」として位置づけている。また田園部、ニュータウンにおいても基本的には「住み続けたい」願いをかなえることを前提に住み替え施策などの対応について第6部第4章で記載している。 	p.27 中段
17	<ul style="list-style-type: none"> 人口密度が下がってきた場合、戸建てが増えるイメージがあるが、逆に、そこに新しい集住のシステムが入ってこないと助け合いのしようがないのではと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の1第2章で「住まいについての情報発信や教育の推進、地域による住まいの環境を維持・管理するルールづくりや継続的な取り組みの支援など、「大切に住まう・ともに住まう意識」の向上をめざす旨を位置づけている。 	p.27 中段
18	<ul style="list-style-type: none"> 住環境の項目が単体の住宅・住戸の問題に偏らないよう留意して、わかりやすい表現を。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第1章「②安心して豊かな住まいづくりを進めます」において表現に留意して記載した。 	p.27 中段
(低炭素社会を実現する持続可能なまちをめざして)			
19	<ul style="list-style-type: none"> 1(3)「総合的な交通環境の形成」に、例えば交通需要のマネジメントなど、ソフト的な対策についてもう少し記述すべき。また、料金のマネジメントについても非常に重要な項目なので、考えていくということを記述しておくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部の第3章で、めざす姿に「公共交通を中心とした交通ネットワークの維持・形成をソフト・ハードの両面から推進」する旨について位置づけている。また取り組みには「EST(環境的に持続可能な交通)などの交通施策により公共交通への利用転換を促進すること」を位置づけている。 	p.64 中段 p.65 上段
(環境にやさしく持続可能なまちをめざした取り組みの推進)			
20	<ul style="list-style-type: none"> 大型客船などが停泊中に陸電という形で電気をとることができれば、CO2排出抑制に貢献できる。日本の港湾では他にない設備なので、相当の投資は必要と思うが、神戸が先鞭をつけられれば、大いにPRできるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4部第3章で「停泊中の船舶への陸上電力の供給など、神戸港における環境負荷を低減する取り組み」の推進を位置づけている。 	p.55 中段
21	<ul style="list-style-type: none"> 都市基盤の維持管理について1-13(持続可能なまちづくり)、1-14(災害)のどちらにも記述があるが、ひとつの項目としてまとめ、現在のサービスを保つためにどのくらいの手間とコストが必要なのかを明確に示してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の趣旨をふまえて第4部第1章の取り組みを整理し「①都市基盤施設の適正な維持管理・機能強化を進めます」として記載している。また第6部第2章では効率的な経営をさらに進めるための、透明性の高いPDCAサイクルの確立を図る旨を位置づけている。 	p.50 下段 p.70 下段
22	<ul style="list-style-type: none"> 都市で自ら資源やエネルギーをつくり出しているところはなく、神戸もしかり。よそからエネルギーを使わせてもらっていることを、明確に市民に対して説明したうえで、省エネルギーの呼びかけを書くことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4部第3章では「再生エネルギーの活用や省エネルギーの推進に寄与する技術の市民・事業者への普及を促進すること」を位置づけており、またご指摘の趣旨をふまえて「学校教育等における環境学習の機会づくりや、環境関連団体と学校の連携による環境教育を推進」する旨を位置づけている。 	p.55 下段 p.56 上段

23	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素社会の実現という言葉は出てくるが、具体性に欠ける。例えば 1-12 の 2(2)「環境にやさしい住宅の確保」では、太陽光発電の補助金制度の充実などもう少し具体的に記述できないか。また 1-13 の 2(1)「温室効果ガスの削減に向けた取り組みの推進」でも、例えば家庭版エコマニュアルの普及・実行といったように具体の記述がないと市民には理解しにくいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の部分では太陽光発電システム設置補助などの具体的な施策も想定している。個別の事業の記載方法については、今後、最終表現の整理において検討していく。 	p.27 中段
24	<ul style="list-style-type: none"> 2(1)「事業者と行政との協働」とあるが、産業部門ではかなり努力して削減している。運輸・家庭・業務など全般的なところでの推進という表現をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4部第3章のめざす姿に「市民のライフスタイルや事業者等のビジネススタイルをより環境に配慮したものへと転換することをめざす」として全般的な推進を表現しており、またご指摘の部分は「環境保全のための協定の締結など、環境保全活動を推進」と修正し記載した。 	p.54 中段 p.55 下段
25	<ul style="list-style-type: none"> 2(3)に「環境NPO団体や学校との連携による環境教育」とあるが、NPOに限定する必要はあるか。「環境関連団体」のような表現でよいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4部第3章で「環境関連団体と学校の連携による環境教育を推進」の表現を訂正した。 	p.56 下段
26	<ul style="list-style-type: none"> めざす将来の姿に、エコ製品を普及させるだけでなく、地域特性に合わせて省エネルギー製品をどう使いこなすか、利用に関する戦略を考えていくという項目を入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4部第3章「①低炭素社会の実現に向けた都市構造を形成します」において地域特性にあわせた方向性をもつ旨を位置づけており、また取り組みとして省エネルギー機器など「省エネルギーの推進に寄与する技術」の「市民・事業者への普及を促進すること」を位置づけている。 	p.54 下段 p.55 下段
27	<ul style="list-style-type: none"> 2020年の25%削減という大きな流れがこの2~3週間で具体化した。モデル計算では、いろいろ前提はあるが、産業部門は18%削減、それに対して家庭部門は62%削減という数値になっている。暮らしや業務など、いわゆるまちづくりの部門が相当程度頑張れと背中を押されている状態。これを2025年の神戸のマスタープランにどう描くか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のような視点を意識して、第4部に「低炭素社会を実現する」という項目をひとつの章として位置づけ、記載内容を充実した。 	p.54
28	<ul style="list-style-type: none"> 世界中で行われているさまざまな試みを「だれの負担で」「どの地域で」具体化するかが重要。地域で投資するコミュニティビジネスのような仕組みが少しずつ提案されつつある。神戸市はもっとチャレンジablに、先人たちの知恵を活かしたまちづくりの方向性をぜひ仕組みの面で取り上げてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4部第3章で「地域特性に応じた再生可能エネルギーや未利用資源の活用・保全を行う社会的企業の育成を進める」旨を位置づけている。 	p.56 上段
29	<ul style="list-style-type: none"> (6)「環境にやさしく持続可能なまちをめざした取り組みの推進」が、図柄になっていない。ローカーボンシティ、ローカーボンゾーン(LCZ)（「低炭素街区」「低炭素地区」）という都市レベルの概念がある。ようやく関西で、いわゆる「オフセット機能付きの開発行為」が実現されるが、このようなLCZの中に、例えば、スマートグリッドの先進的な取り組みや、先ほどの港の通電システムによる二酸化炭素の大幅な削減、消化ガスの発電の試みなどを取り入れ、いわゆる環境インフラの推進ゾーンとして設定するなど含めて、空間に落とししていくという作業ができないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4部第3章で、めざす姿にローカーボンシティの視点をふまえて「低炭素社会を実現する環境負荷の少ない持続的発展が可能なまちをめざす」旨を位置づけている。また第7部第2章ではローカーボンゾーンの視点で「歩行者動線の整備や環境にやさしい公共交通機関の導入等による都心・ウォーターフロントの回遊性の向上」など「低炭素社会の構築に資する快適で高質な空間づくり」をめざす旨を位置づけている。 	p.54 上段 p.82 上段
30	<ul style="list-style-type: none"> まず街区レベル、地区レベル、まち全体のレベルで描き、最終的には環境的なインフラ自体の顔も見えるものにするような大きな流れを(6)環境にやさしく持続可能なまちをめざした取り組みの推進の部分に描けば、ほかとバランスがとれるし、相互に浸透させていくことが可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のような考え方をふまえて、第4部第3章の構成について検討、修正している。 	p.54

31	・ 環境は、個別の仕組みであったり、ハード施設に分断される側面が強いので、神戸市はそういうものを率先してつないでいるという姿を望みたい。	・ ご指摘のような横断的に取り組む姿勢を意識して、第4部第3章「低炭素社会を実現する」での取り組みについて記載をまとめている。	p.54
32	・ 25%削減を前提にした取り組み方や方向性を、今この時点で神戸の長期計画に織り込む必要があるかどうかについては、若干の疑問をもっている。	・ 指針への具体的な数値目標や取り組みの記載の方法については、ご意見の趣旨や、今後の国の温暖化対策に向けた具体的な行程などをふまえながら、重点施策計画や部門別計画の中で、検討していきたい。	p.54
33	・ 環境の面については空間政策としてどう打ち出せるかが重要であり、もう少し最終的な検討を深めていく必要がある。	・ ご指摘の趣旨をふまえて、具体的な取り組みについて今後策定する重点施策計画や部門別計画での検討に取り組みたい。	
(災害などの危機に備えた安全な都市空間の形成)			
34	・ めざす将来の姿に「災害危険情報の整備充実や共有化」とあるが、災害時はいわゆる協働がなかなかうまくいかない。それぞれがなすべき役割を果たすことが重要となる。例えば行政は情報発信、地域と住民はリスクの認知をすることが役割であり、それぞれ何をすべきかがもっと書き込まれていれば理解しやすい。	・ 第4部第1章で「まちの安全を確保するためには、市民・事業者・市が日頃から協働で様々な取り組みを進め、非常時にはそれぞれの役割を的確に果たすこと」が重要である旨を位置づけている。	p.50 上段
35	・ 「減災」の視点が、ハードウェアも含めてなのか、しくみのソフトウェアの話なのか明確にしておくべき。	・ 第4部第1章ではめざす姿として「大災害に対する都市のぜい弱性を減少させるためのソフト・ハード両面の対策を着実に進めること」を位置づけている。	p.50 下段
36	・ 「六甲グリーンベルト」という大きな構想に関して触れられていないが、地主がどんどん変わっていく中で緑を維持していくために、だれが緑を守り、育てるのかを市民の間で共有しておくことが重要となっている。「六甲グリーンベルト」を今後、神戸市としてどのように活用し防災に活かしていくのかといったようなこともあわせて、過去のプロジェクトとの関連について考えてほしい。	・ 第4部第1章で「水害、土砂災害、地震その他の自然災害対策や被害軽減に必要な防災施設の整備・充実」や「六甲山系などの森林、河川、ため池、里山などを適切に保全」する旨を位置づけている。具体の事業の取り組みについては、今後策定する重点施策計画や部門別計画で検討していきたい。	p.50 下段
37	・ 2(1)「災害発生時に機能する交通ネットワークの確保」において、災害時に港湾を利用するのであれば、移動する貨物量を勘案して、ポートアイランドあるいは六甲アイランドから内陸への道路は現状で十分であるという判断なのか、それとも、新設も考えての確保ということなのか、教えてほしい。	・ 緊急輸送路については、橋梁の耐震化などにより災害発生時に機能するよう整備を進めているところである。一方、災害時だけではなく、神戸港の国際競争力を確保していくために、ポートアイランドや六甲アイランドのアクセスとなる大阪湾岸道路西伸部を計画路線として位置づけている。	p.50 下段
(活力・知力・魅力にあふれるリーディングエリアの創出)			
38	・ 兵庫運河やポートアイランドは、例えば物づくりや医療産業が集積したところで集客にはつながらず賑わいを期待しにくい。関西のリーディングエリアと言うのは理想過ぎるように感じる。	・ リーディングエリアとしては、集客のみならず先端的な産業の集積や、知的人材の集積・交流などを併せもつエリアを位置づけづけている。	p.82
39	・ 兵庫運河については、ウォーターフロントの魅力だけではなくものづくりの拠点として、また、もの自体が世界的にも大変すぐれた低炭素商品になっていくという期待も持てる。メガ・リージョンの拠点として打ち出す場合に、即物的な「兵庫運河」という表現ではその包括的なイメージが伝わらないのでは。	・ ご意見の趣旨をふまえて第7部第2章で「兵庫運河周辺 ～世界に貢献するものづくりのまち～」と表現した。	p.84 上段
(全体構成・表現について)			
40	・ 例えばウォーターフロントについては、これまでに他の委員会などでなされてきた議論や検討がどのようにつながっているのか。全体的に感じていることだが、もう少し説明がない	・ 基本計画については、個別施策の具体的な計画である「部門別計画」と相互に補完連携して進めています。都心ウォーターフロントについ	p.82～83

	と分かりにくい。	ては、第7部第2章でこれまでの研究会提言などの内容を方向性に反映して記載している。	
41	・特に、市民に向けて、一人ひとりが自分に直接関わることだと分かる見せ方をしないと、読んでもらえず、せっかくの取り組みも伝わらない。	・各章において、「3 ともに進める取り組み」と表現を修正し、市民・事業者・市が協働して取り組むという方向性を位置づけている。	
42	・提案の言葉遣いに主語がないため、例えば、「確保します」も誰が確保するのかが不明確。	・各章において、「3 ともに進める取り組み」と表現を修正し、市民・事業者・市が協働して取り組むという方向性を位置づけている。	
43	・分かりやすい計画にする方法として、例えば総合計画を骨子だけのシンプルなものとし、具体的な施策をある程度部門別計画にゆだねるなどの方法もある。事務局で十分留意して進めること。	・基本計画については、選択と集中により戦略的でかつ簡素で市民にわかりやすい計画づくりを目指しており、部門別計画との分担についても留意していく。	
44	・各区、各地域で環境が違い、皆の思いも違う。地域ごとの中期計画もある。神戸市全体を網羅した一つの方針としては、あまり細かく書きすぎずとも、それぞれの地域性という視点から読んで理解できればよいのではないか。	・神戸づくりの指針については、市全体の観点から取り組みの方向性を示すものであり、地域での具体化にあたってはそれぞれの特性に応じた取り組みがなされるものと考えている。	
45	・まち・田園・緑のゾーン分けが書かれている項目とそうでない項目があるが、ゾーン分けは最初に神戸の特徴的な部分として書いておき、個々に動いているものをうまくつないでいく計画をつくるという趣旨を示すのがよいのではないか。	・第5部第1章「2めざすまちの姿の全体像」に、ゾーン分けについての集約して位置づけている。	p.58
46	・「緑」と「景観」には同じ要素が多い。ひとつの提案だが、景観もひとつの環境基盤であるので、水と緑を含めた環境基盤の視点と、まちづくりの魅力や観光を含めたデザイン都市の視点と、この2つの項目で整理する方法もあるのではないか。	・ご指摘のような考え方をふまえて、第4部第2章に「まちの美しさと魅力を守り高める」という視点での記載を整理している。	p.52～53
47	・都市空間部会では将来のコンセプトを空間像として形にするのが大きな仕事。その意味で最初の全体像の2枚の図面はよいが、分野別の取り組みは図柄になりやすく、厳しい。	・ご意見のように、めざす姿の全体コンセプトを空間像として表現することを意識して図（めざすまちの全体像）を作成している。	p.57～59 p.60 図
(全体的な考え方)			
48	・基本計画をどういうレベルでまとめようとしているのか。例えば神戸が世界に先進的な環境都市をつくるのかつくりたくないのかといった大方針をうたうのが基本計画では。どういう政策でどう実行するかまで踏み込んで議論すべきである。	・基本計画については、選択と集中により戦略的でかつ簡素で市民にわかりやすい計画づくりを目指している。 第4部第3章では、「低炭素社会を実現する環境負荷の少ない持続的発展が可能なまち」をめざす姿として位置づけている、具体的な取り組みについては今後策定する重点施策計画や部門別計画の中で検討していきたい。	p.54 上段
49	・資料4「さらに発展させていくまちづくりの取り組み」の(1)から(5)には、産業の観点か抜けているのではないか。こういう構想があるから空間的にはこういう機能が必要という議論が繋がっていない。 また神戸の経済を支える港湾の役割は大きい。将来も中核的な産業構造として神戸港を守っていくという方針を掲げるかどうかで、神戸港の空間をどうするか議論は変わってくる。神戸をどういう産業で支えていくのかというようなことが、都市空間を議論するうえで、大前提として必要である。	・第2部の2第3章で「世界とつながる利便性の高い都市基盤と知的プロジェクトを活用した新たな価値を創造するまちづくりを行う」ことを産業の観点として位置づけており、これをふまえ、第5部第2章では「工業及び関連業務機能などが集積する地域（P60図の臨海産業エリア・内陸新産業エリアなど）の維持・強化を図ること」を位置づけている。 また第5部第1章では「産業エリアなどでの産業活動を支え、国内外の交流や物流を促進する」ための『『港湾物流エリア』における神戸港の機能強化を図ること』を位置づけている。	p.34 中段 p.62 中段 p.59 中段

50	<ul style="list-style-type: none"> めざす何かを目標にして、都市空間部会でどのように押さえていくかを議論していくと、めざすものがどこかでぶつかる。相反するものを並記して矛盾した絵を書くことのないよう、それらをどう解決して乗り越えていくのかを議論する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のように、神戸の自然環境はなくてはならないものであり、それらの都市環境インフラを保全・育成しつつ現在の都市基盤を十分活かし「総合的なマネジメント」を進めることを第5部第1章めざす姿に記載している。 	p57 上段
51	<ul style="list-style-type: none"> トレードオフだけが計画でないという面もあり、どうしたら共通の理念を見出せるかという議論が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> また、まちの姿の全体像を示す図面においても、そのようなまちづくりの方向性を示す意味から一つの図面で表現するよう工夫した。 	p60 図
52	<ul style="list-style-type: none"> 1960年代後半からの都市化に対する神戸市のニュータウン開発などの取り組みはある意味でオフェンシブな取り組みであったといえ、一定の評価をすべき。しかしながら、これからの方向というのはまた違うという意味で、前回のご意見にもあったように、今回の計画ではディフェンシブな方向性の追求も必要であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見の趣旨をふまえ、第5部第2章でめざす姿として「社会情勢の変化に対応し、地域特性を活かした適正な土地利用を誘導」する旨を位置づけている。 	p.61 中段

第3回都市空間部会（平成21年10月29日）

発言番号	意見の内容	指針素案での取り扱い	該当箇所
議題：3 地域が主体的に取り組む地域環境をつくる			
(1) 密集市街地			
1	・ 課題のところには山麓斜面地が課題とあるが、取り組みの方向性のところにはその記述がない。（説明用）図面にも入っていないようだが、理由は何か。	・ 第6部第4章(1)で、課題として認識するとともに「ともに進める取り組み」にも「山麓市街地などの建て替え困難な宅地を有効に活用できる仕組みづくりを進めること」を位置づけている。説明図面（第3回部会資料5）については現在の取り組みについて記載したものである。	p.74 中段
(2) 成熟したニュータウン			
2	・ 「空き店舗などを活用した交流・活動の場の確保を支援」とあるが、空間部会での議論ではこの記述になるかもしれないが、商業機能として、空き店舗に対して、中長期的な観点からの記述が必要と思う。空間部会ではハード中心の記述になっているが、ソフト面も含めてまとめてほしい。また、どういう人材がそこをどのように使っていくのかについても触れてほしい。	・ 第6部第4章に「地域団体、NPO、大学など多様な主体によるネットワークを構築」「空き店舗などを活用して交流・活動の拠点を形成」としてソフト面を含めまとめている。 ・ また第2部の2第1章で「地域と一体となった商店街・小売市場づくりを進めること」を位置づけるとともに、第5部第2章で地域拠点や連携拠点において「地域の都市活動の拠点としてふさわしい商業・業務機能の集積を促進」する旨を記載している。	p.75 上段 p.30 下段 p.62 中段
3	・ この全体のタイトルが地域主体となっており、エリアマネジメントが根付いていることを前提に、取り組みの方向性を記載したほうが良いのではないか。	・ 審議資料の「取り組みの方向性」の項目については「ともに進める取り組み」と変更し、第6部第3章ではエリアマネジメントの存在を前提とした取り組みについて記載している。 また第6部「みんなで『わがまち』を育む」にめざす姿として「総合的・自律的な地域運営(エリアマネジメント)を展開する」ことを位置づけている。	p.74 p.72 上段
4	・ 田園地域のところで自主運行バスなどの取り組みへの支援とあるが、田園地域に限らず、ニュータウンなど、通常のバス路線の対応が難しいところではどこでも必要になるのでは。	・ 第5部第3章で「交通が不便な地域における住民の移動手段を確保する自主運行バスや人の生活を支える視点での様々な交通環境を形成」する旨を位置づけている。	p.65 中段
5	・ 地域コミュニティの強化、参加の機会の創出、人材のネットワークなどの記載があるが、どういう人たちを想定しているのか。若い人でなく、ヤングオールドというか、退職した団塊の世代の人たちが地域を変えてくれると思うし、ノウハウももっておられる。今回の計画では、そういう人たちに主体になってもらいたいので、参加の機会を創出し、そのための施設をつくるなどターゲットを具体的に絞った方がよいのではないか。	・ 第6部第4章で「団塊の世代をはじめとした人材を発掘するため、地域活動への参加機会を創出」することを位置づけている。	p.75 上段
6	・ めざす将来の姿には、明るいニュータウンのイメージがあるが、介護の経験からは、介護していく施設がなく、これまで培ってきたコミュニティから切り離された場所に行かざるを得なかった。そういう局面を開くプランにしていきたい。	・ 第6部第4章で「地域の見守り活動や地域団体・NPOによる施設の運営など地域活動の展開を推進すること」や「地域特性やライフスタイルの変化に対応して、住み替えの円滑化や公益的施設の機能転換に取り組むまちづくりを推進すること」を位置づけている。	p.75 上段

7	<ul style="list-style-type: none"> 成熟したニュータウンに住んでいるが、めざす将来の姿はまさにそのとおりだと思う。それは普遍的なまちの姿でもある。年を召された方を弱い人と捉えず、どうまちづくりに力を貸していただくか、という視点の記載が必要では。 	<ul style="list-style-type: none"> 第6部第4章で「団塊の世代をはじめとした人材を発掘するため、地域活動への参加機会を創出」することを位置づけている。 	p.75 上段
8	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり学校で、「自律と持続」をテーマに、成熟したニュータウンのひとつであるひよどり台のまち歩きをおこなった。60代、70代の方を中心にまちづくりに活発に取り組まれている。自律という意味でも、行政サービスをどうするかだけに記述が偏っては問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第6部第4章に、ご指摘のような地域主体の観点でまちづくりに取り組むことを位置づけている。 	p.74
9	<ul style="list-style-type: none"> フィンランドのタピオラは歴史あるニュータウンとして有名だが、地区センターに墓地を入れるという大きな土地利用転換を行っている。宗教的なバックグラウンドは異なるが、このような転換も重要な視点であろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 第6部第4章で「地域特性やライフスタイルの変化に対応して、住み替えの円滑化や公益的施設の機能転換に取り組む」ことを位置づけている。 	p.75 上段
(3) 田園地域			
10	<ul style="list-style-type: none"> 地域による田園景観の取り組みへの支援との記載があるが、まず都市近郊農業としての充実策があるべきで、農業の活性化に対応して良好な景観が生まれてくるのではないかと。いかに田園地域を活性化していくかが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第1章で「農水産業のブランド化と地産池消を進める」として農業活性化の必要性を位置づけた上で、第6部第4章で「田園地域における農業、生活・文化・自然の豊かさを保全するなど地域による里づくりを推進する」旨を位置づけている。 	p.30 下段 p.75 下段
11	<ul style="list-style-type: none"> 今後、農業がより多様化することが想定され、田園環境についても市街地と同じようなコントロールが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第2章「幹線道路沿いなどでの資材置き場や駐車場などの土地利用に対する対応が必要」であることを課題として認識しており、取り組みとして「良好な営農環境、生活環境及び自然環境を保全・活用しながら、地域特性を活かした土地利用を推進」する旨を位置づけている。 また、第6部第4章にも「地域による美しい田園景観の保全や秩序ある土地利用のための取り組みを推進すること」を位置づけている。 	p.61 上段 p.74 下段
12	<ul style="list-style-type: none"> 農業のあり方についてだが、空間部会では現在示されている地域の範囲で、ものを考えようとしているのか伺いたい。議論を進めるにあたって、現在の図の地域の範囲に限定しないということも頭においておくべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第5部第2章めざす姿で「3つのゾーン（まちのゾーン、田園のゾーン、みどりのゾーン）の区域を基本的に維持しつつ、社会情勢の変化に対応し、地域特性を活かした適正な土地利用を誘導する」旨を位置づけている。 	p.62 中段
13	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、神戸の農業は一步踏み出して、会社方式で進めることも考えていくのかどうか。その進め方をするとすると、都市空間上の対応も必要になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2部の2第1章で、農業従事者の高齢化や不耕作地の増加への対応として「後継者の育成をはじめ企業やNPOなど様々な担い手を育む」と位置づけている。 	p.30 下段
14	<ul style="list-style-type: none"> 田園地域の記述が地域による〇〇への支援となると市が一步引いたような記載になるが、よいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の計画は協働計画であると考えており、主体を限定しないよう「ともに進める取り組み」とし、表現を工夫した。 	p.75 中段
15	<ul style="list-style-type: none"> 農業のあり方は活力・魅力部会にも深く関係するが、土地利用の問題として考えていくところでもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第6部第4章で「地域による美しい田園環境の保全や秩序ある土地利用のための取り組みを推進」する旨を位置づけている。 	p.75 下段

16	・ 地域が主体的に取り組むということでは、里づくり協議会などで自ら土地利用を考えるような取り組みにもふれておくべきではないか。	・ 第6部第4章で、住民が主体的に行っている里づくり協議会や里づくり計画の取り組みについて記載をした。	p.75 中段
全般・記載の工夫について			
17	・ 3（地域が主体的に地域環境をつくる）のめざす将来の姿には、何のためにという目的の部分が書かれておらず、方法論が記載されている。取り組みの背景を記載しておいたほうがよい。	・ 第6部第4章で取り組みの背景については「1 現状・課題」に、目的については「2 めざす姿」に整理して記載した。	p.74～75
18	・ 3（地域が主体的に地域環境をつくる）はむしろしくみを書く書き方だと思う。課題はこれまでのしくみを検証した結果であるべきだが、書き方には研究を要する。	・ ご指摘の趣旨をふまえて、第6部第4章では地域人材を活かすことや地域のルールづくりなど、しくみの部分を意識して記載している。	p.74～75
19	・ めざす将来の姿では、〇〇を通じて、という方法論が強調された感じがする。記載方法に工夫が必要では。	・ 第6部第4章の各項「めざす姿」についてご指摘の趣旨をふまえて記載を修正した。	p.74～75
議題：4 活力・知力・魅力にあふれるリーディングエリアの創出			
(1) 都心・ウォーターフロント			
20	・ 東灘区でも現在、区の計画づくりに取り組んでいるが、ワークショップでは水上バスを西宮浜～芦屋浜～東灘～中央まで通すという案が非常に人気を得た。都心ウォーターフロントの検討にも隣接する都市との関係をもっと意識してもよいのではないか。	・ 第5部第3章で「ウォーターフロントの各拠点をつなぐ、市民や観光客が気軽に利用できる海上交通の導入」を、また第7部第2章で「港と水面をいかした海上交通などの導入に向けた調査検討」を位置づけている。 ・ またメガ・リージョンにおける隣接都市との連携を意識して、第7部第2章で「メガ・リージョンにおける神戸の魅力の世界に発信するリーディングエリア」を形成することを位置づけている。 ・ 第1部1章においても「関西圏の都市連携による関西のメガリージョンを形成し、その強みを発揮していくこと」「今後関西の主要都市とのより一層の連携を促進していくこと」が重要であると認識している。	p.65 下段 p.82 上段 p.11 下段
21	・ 水上バスについては、結局採算性が残念ながら撤退するという状態が続いている。あったらいいなどのイメージは湧くが、実際に利用するというところまでいくかが問題。	・ 第5部第3章で「ウォーターフロントの各拠点をつなぐ、市民や観光客が気軽に利用できる海上交通の導入」を、また第7部第2章で「港と水面をいかした海上交通などの導入に向けた調査検討」を位置づけている。	p.65 下段
22	・ 言葉の使い方についてですが、新港突堤もすでに新港ではない。どこかの時点で名前を変えていくというのが大事では。	・ プロジェクトの進捗に応じて、新たなネーミングの必要があれば検討していきたい。	p.82
23	・ プロジェクトの熟度に応じてネーミングがついてくると考えればよいのでは。		
24	・ リーディングエリアが3箇所だが、海沿いというともっと広く、舞子、須磨海岸もあるのに、なぜ兵庫運河で切られているのかと思う。	・ 第4部第2章で「須磨から舞子海岸の海浜の保全」などによる、「神戸のウォーターフロントの魅力向上を進める」旨を位置づけている。 ・ また第2部の2第3章では観光資源の魅力向上の面で「六甲山・	p.52 下段 p.35 上段

		摩耶山、有馬温泉、須磨・舞子など都市近郊にある自然」を「デザインの視点で再構築」することを位置づけている。	
25	・ 旧居留地の景観がひとつ奪われ残念に思うことがあった。15 番館の東西の道が非常に好きな景観だったが、東西両方の視点の先にマンションが立ち、空が奪われた感じだ。	・ 第7部第2章で「通りから海への眺望の確保」など神戸らしいまちなみによる眺望景観を形成することや、また第4部第2章で「海や山を一望したり、河川や道路などの先に海や山を望む眺望景観の保全・育成」を進めることを位置づけている。	p.82 下段 p.53 中段
26	・ 都心・ウォーターフロントに箱物ができるなら、夜間景観を大切にしたい取り組みを期待したい。例えば香港のシンフォニー・オブ・ライツを意識してもらいたい。	・ 第7部第2章で「通りから海への眺望の確保や魅力的な夜間景観づくり」など神戸らしいまちなみによる眺望景観を形成することや、また、第4部第2章でも「特色ある夜間景観の形成に向けた取り組み」を推進することを位置づけている。	p.82 下段 p.53 中段
27	・ 都心・ウォーターフロントも大きな方向性として考えるのであれば、個別のプロジェクトが止まっている時期にきちんと全体のプランをまとめ、個々の建築をきちんと誘導していくべきと考える。	・ 第7部第2章で「ともに進める取り組み」として方向性をまとめている。具体的には今後策定する「都心・ウォーターフロントのランドデザイン」において検討していきたい。	p.82～83
28	・ 元町も都心にあるが、駅周辺の整備が不十分である。南京町というシンボルをいかし、三宮や港と一体となって、グレードアップする取り組みを打ち出してほしい。	・ 第7部第2章で「三宮駅などターミナル駅周辺について、神戸の玄関口にふさわしいシンボリックな空間を備える」ことを位置づけている。	p.83 上段
29	・ 昔とは船の数がぜんぜん違う。以前は港に活気があり、ワクワクする感じがした。今は活気が少なくなったが、神戸港をどのようにアピールするかを考えるべき。	・ 第2部の2第3章でめざす姿として「世界へとつながる利便性の高い都市基盤と知的プロジェクトを活用」することを位置づけており、第5部第3章では「アジア有数の国際貿易港」「西日本の国際ハブ港」として機能強化する旨を神戸港の方向性として記載している。 ・ また、第7部第2章では都心・ウォーターフロントをメガ・リージョンにおける神戸の魅力の世界に発信するリーディングエリア「～世界に誇れる『港都 神戸』～」として位置づけている。	p.34 中段 p.65 下段 p.82 上段
30	・ 都心とウォーターフロントが一体化しても世界に発信できないと思う。世界レベルのものが少ない。明石海峡大橋は世界一長いつり橋として、海外にもアピールできる。	・ ご意見の趣旨をふまえ、第2部の2第3章では「須磨・舞子など都心近郊にある自然や、開港の歴史に基づくみなとやまちの資源をデザインの視点で再構築し、オンリーワンの観光資源の魅力向上に取り組む」旨を位置づけている。	p.35 上部
31	・ 須磨のヨットハーバーは大きなヨットが止められない。空港島付近にはヨットが寄れない。神戸のよさは水面にもあり、トータルでデザインする必要がある。	第7部第2章で「山海の恵まれた自然環境とみなとまちが融合するまちをめざす」とし、地域資源としての水面も意識した方向性を記載している。 また、具体的には「港と水面をいかした海上交通などの導入に向けた調査検討」など部門別計画と連携を図りながら進めていく。	p.82 中段
32	・ リーディングエリアとしてはもう少し別の視点もいるのではないか。	・ リーディングエリアの要素としては、集客のみならず先端的な産業の集積や、知的人材の集積・交流などを併せもつことがあげられる。第7部第2章では、これらにより新たな価値の創造が期待できるエリアの中で、選択・集中して取り組みを行うところとして、3	p.82

		つのエリアをとりあげている。またそれぞれの視点について、副題を追加して表現した。	
33	・ ウォーターフロントについて何を重点におくのか。須磨、舞子、明石海峡大橋を含めて考えていただきたい。	・ 都心・ウォーターフロントについては、第7部第2章で「文化・芸術・教育・商業・居住機能などさまざまな都心機能を導入する」ことで「都心とウォーターフロントが相乗効果を発揮しながら発展することをめざす」と位置づけている。 ・ 第4部第2章では「須磨から舞子海岸の海浜の保全や緑化の推進による神戸のウォーターフロントの魅力向上」を「水と緑など自然環境を活かしたまちづくり」の取り組みとして位置づけている。また、第2部の2第3章では「六甲山・摩耶山、有馬温泉、須磨・舞子」などの「みなとやまちの資源をデザインの視点で再構築し、オンリーワンの観光資源の魅力向上に取り組む」旨を位置づけている。	p.82 下部 p52 p35 上段
34	・ ウォーターフロント研究会ができて期待していた。みなとまちのランドデザインが必要と感じている。シドニーのオペラハウスやアメリカの東海岸の都市などは非常に美しい。神戸も海と山を売りにした戦略を考えていくべき。	・ 将来構想については第7部第2章でめざす姿として、また「港の歴史を継承し『みなと・まち・やま』をつなぐ」ことを取り組みとして位置づけている。	p.82
(2) ポートアイランド			
35	・ ポートアイランドの生活関連施設の不足が課題として上げられる。欠けている機能をどう補足するのかについて、具体的には部門別計画かもしれないが、少しは書き残しておかないとどこにもないのでは困る。	・ 第7部第2章で「働き、訪れる人々でにぎわう、魅力的で高質な都市環境のさらなる充実を図る」ことを位置づけている。	p.84 上段
36	・ ポートアイランドの部分の記述は2期を意識した記述となっているが、1期の部分の問題も大きい。ファッションタウンも衰退の兆しが見られる。大学もできたが、学生と交流できる場所も銀行もない。これらのことは官民が一緒に考えていく問題だ。	・ 第7部第2章で「社会基盤施設等の機能更新にあわせて都市機能の充実を図る」旨を位置づけている。	p.83 下段
37	・ ポートピア博覧会的时候は、日本中からすごい人がやってきた。21世紀を先取りした未来型の都市と思ってきた。今の状況はどうか。第1回 部会でも反省することも必要との意見をいったが、計画的につくってきたまちの実態を検証し、次に活かすことが重要では。2期の取り組みも1期の反省をふまえた計画とすべき。	・ 第5部第1章で、人口構造の変化や地球環境問題など新たな課題に対応していくことが求められる「これからの都市空間づくり」において、「成熟社会への転換期を迎える中であること」を前提とした視点を位置づけている。 またこれらの視点をふまえた具体の取り組みについて、第7部第2章に記載している。	p.57
(3) 兵庫運河			
38	・ 観光タクシーで鉄人28号の観光ルートを考えて。ひとつは目をならず意味で、兵庫大仏を見ていただき、そこまで行けば、川崎重工の車両工場ということになる。そこではゼロ系新幹線もみることができる。兵庫津は全国区ではないが、ゼロ系新幹線は全国区。魅力あふれる空間は全国区で勝負していく必要がある。	・ 第7部第2章でめざす姿として「世界最先端の技術をもつものづくり産業の集積を活かす」ことを位置づけている。	p.84 上段
39	・ 兵庫運河は、大変価値のあるところだと思う。しかし兵庫運河と書くと運河だけになるので、運河周辺も含んだエリアとしていただきたい。川崎重工、三菱造船、大輪田泊などは全	・ ご指摘の趣旨を反映し第7部第2章で「兵庫運河周辺～世界に貢献するものづくりのまち～」と表現を変更した。	p.84 上段

	国区。兵庫運河もシビルエンジニアリングとして優れた資産。		
40	・ 最近訪れた碓氷峠の橋などではシビルエンジニアリングとして、先人の偉業を感じた。そういったものに市民が誇りをもち、まちを自慢したくなる。神戸にも土木遺産も数多くあり、観光資源になっていくと思う。	・ 第7部第2章で「運河全体を歴史的土木資産として活用」することを位置づけている。	p.84 中段
41	・ 三菱、川崎などの企業にどう参画してもらおうか。企業の取り組みはもっと市民に見せることが必要だと思う。川崎は日本のみならず、世界の車両を作っている。もっと企業にもまちづくりに参画してもらう必要があるのでは。すばらしい産業の財産である。	・ 第7部第2章で「ものづくり産業の工場などと連携し、世界最先端の技術を感じられる産業観光を拡充」することを位置づけている。	p.84
(4)六甲山・有馬			
42	・ 六甲山から見える景色は非常に美しいが、今は120°の視界を確保できる場所も少ない。夢のような話だが、例えばハーブ園⇒摩耶ロープウェー 星の駅⇒六甲山上と横につなぐロープウェーがあると面白いと思う。	・ 第4部第2章で「海や山を一望したり、河川や道路などの先に海や山を望む眺望景観の保全・育成」を進める旨を位置づけている。	p.53 中段
43	・ 「六甲山はきれいな空気が吸える場所として車を排除しては」と以前提案して怒られたこともあったが、低炭素社会をめざすなら大胆にそのような取り組みをしてもよいのでは。	・ 第4部第3章でともに進める取り組みとして「低炭素社会の実現に向けた都市構造を形成」する旨を位置づけており、「CO2の吸収源となる六甲山系や帝釈・丹生山系などの森林を適切に保全・育成する」などの取り組みについて記載した。	p.54 下段
44	・ 六甲山は神戸にとって大きな意味を持っている。神戸は一人当たりの公園面積の大きいまちだが、それに六甲山を加える考え方をさらにもつ必要がある。観光地の側面だけでなく、市民がきれいな空気が吸えるという部分も大事。		p.55 中段
リーディングエリア全般			
45	・ リーディングエリアについては、地域をネットワークしていくという考え方も必要では。かつて設定していた酒蔵や六甲有馬などの観光群という位置づけは、今回はどう扱うのか。現在は場所が先にあるが、今後の整理では、テーマを追う中で空間とつながり、場所が現れてくるという整理もあり得る。	・ 観光資源については、第2部の2第3章で「多彩な観光資源を活用・創出し、新たな観光を推進」する取り組みとしてオンリーワン観光資源の魅力向上などの方向性を記載している。	p.35 上段
全体			
46	・ 芦屋、西宮と連携がうまくとれていない。東京の人から見ると神戸は広く、芦屋、西宮も神戸、明石、加古川も神戸と思っている人も多い。阪神間の住宅地といったときに隣の芦屋の存在もあり神戸も美しいといわれる。デザイン都市の取り組みも神戸だけでよいのかと感じている。	・ 第6部第2章で近隣市町との連携のもと「各市町独自の資源・特性等を活かした効率的で利便性の高い広域生活圏の形成を進める」旨を位置づけている。	p.71 下段
47	・ こちらに越して来た頃に、「神戸に住む」と友人に言うと「芦屋か」と言われたが、「須磨よ」と言うとそのイメージも良かった。西の方も含めて、全体的な感覚をもつことも大切である。	・ 第4部第2章で「須磨から舞子海岸の海浜の保全や緑化の推進」などによる神戸全体のウォーターフロントの魅力向上を進めることを位置づけている。 また、第2部の2第3章では「六甲山・摩耶山、有馬温泉、須磨・舞子など都心近郊にある自然」などを「デザインの視点で再構築し、オンリーワンの観光資源の魅力向上に取り組む」と位置づけている。	p.52 下段 p35 上段

48	<p>・ 団塊の世代の方が、地域のために活躍するのは重要だが難しい面も多いので、その手立てについて記述しておく必要がある。板宿など本当に懸命に取り組まれているが、どの地域でそのような取り組みがあるかについて把握できるようなデータというものはあるのか。</p>	<p>・ ご指摘の趣旨をふまえて第 6 部第 4 章で「団塊の世代をはじめとした人材を発掘するため、地域活動への参加機会を創出」する旨を位置づけている。</p>	p.75 上段
49	<p>・ 道路・交通体系については周辺地域まで含まれているが、他の議論はポイントごとになっている。海と山のまちとして、運河だけでなくすべての水面をどう活用するかという視点が重要。</p>	<p>・ 第 7 部第 2 章では、ご指摘の視点をふまえ「六甲・有馬、須磨・舞子など、神戸を象徴するエリアの活性化につとめる」ことを前提に、兵庫運河など 3 つのエリアにおける取り組みを進めるものと位置づけている。</p> <p>また、第 2 部の 2 第 3 章では「六甲山・摩耶山、有馬温泉、須磨・舞子など都心近郊にある自然」などを活かしたオンリーワンの観光資源の魅力向上を図るとして水面の活用を意識して記載している。</p>	p. 82 上段 p.35 上段